

「市長と語ろう！」 in 柴崎学習館【概要】

平成29年11月26日（日）

10時～11時30分

柴崎学習館

1 開会の挨拶

（市長）

おはようございます。恒例のタウンミーティング、今年も皆さん方のご協力をいただき開催することになりました。来年1月、来年度の予算ができ上がる頃までに10回のタウンミーティングを市内各所で開催する予定です。また、平成27年から始まりました第4次の長期総合計画ですが、今まで15年計画であったものを、15年では長過ぎるということで10年の計画に短くしました。しかし、これだけ社会の動きが激しい中では10年でも長い事柄もあろうかということで、半分の5年間で見直しをかける計画でございます。このようなタウンミーティングからの皆さんのご意見を反映していきたいと考えております。

来年度は、「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」の施行に向け、しっかりと皆さんのご理解をいただき、市全体でこの条例に沿ったさまざまな動きをしていかなければならないと思います。これは画期的な条例ですので、ぜひ、ご理解をいただきながら、この条例の円滑な推進に力を注いでいきたいと考えております。

それから、日の出町の二ツ塚処分場で、立川市も含む25市1町でごみの埋め立て処分を行っておりますが、ごみ減量に対する皆様のご協力により、立川市のごみは現在、1グラムたりとも埋め立てをしないで済むようになっており、たいへんありがたいと思います。

家庭や企業から排出されるごみは、17種類に分別をお願いしています。燃やせるごみは、清掃工場で燃やしており、その燃やした灰を二ツ塚処分場にある工場に持っていき、その工場で灰をセメントにつくりかえております。燃えなくて処理に困るごみだけは最終処分場で埋め立てをしているわけではありますが、25市1町の中で、やむを得ず埋め立てに回さなければならないごみを排出しているのは、わずかな団体だけです。

これはすばらしいことでございまして、ごみ袋を買っていただく有料化や、17種類にも分別してごみを出していただくという、大変なお手間を市民の皆さんにおかけをしているわけであります。自分たちのまちは、ごみを埋め立てに回すようなことは一切していないことを、胸を張って自慢できることではないかと思います。市民の皆さんのご努力のおかげであり、感謝をしているところでございます。

立川の人口について、昭和38年、旧立川市、旧砂川町が合併したときの人口が約10万人です。旧砂川の人口が2万人弱、旧立川市の人口が8万人強で約10万人でした。おおむね50年前であります。約半世紀たった今、立川市の人口は約18万3,000人です。しかし、35年後には約2万3,000から2万5,000人ぐらい減るだろうといった推計があります。

立川市内の公共施設について、市民1人当たりの面積は2.4平方メートルです。学校や図書館等、いろいろなものを合わせた面積で、赤ちゃんからお年寄りまでに該当します。ところが、多摩地区の平均は1.9平方メートルで、0.5平方メートルの差があり、立川は、多摩地区の中でトップクラスの公共施設を持っている市です。

人口が減れば、現在の公共施設でもフルに活用しなくなってくる公共施設が出てきて、

維持するだけでもお金がかかる。そのお金は市民の皆さんからの税金がベースになっているわけであります。市民負担を軽減するためにも、公共施設を将来的には減らしていかなければならないと思います。

公共施設の機能を持たせながら、いかに機能的に、そして縮小しながら、利用率が高い形で運営していくかが重要であります。今ある公共施設全てをそのまま維持するというのはナンセンスな話ですので、合築や機能集約した施設にしていくことが考えられます。

この柴崎学習館が入っている建物は、中央公民館や図書館などいろいろな施設が入っており、第一小学校と公共施設が一体となって運営されておりますが、まさに、将来を見通したお手本の施設ということでもあります。

将来的にはこういう形で幾つかの公共施設を1つにまとめて、より使いやすいものにしていくことによって、ばらばらになっていたものを1つに統一し、管理費も安く、さらに利用しやすい公共施設に再編成していく、これが大きな課題であると思っております。

このような背景のもと、今後も立川市の運営をやってまいりたいと考えておりますので、限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただき、将来の方向性の糧にしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

立川南口の環境改善及び客引き防止条例改正についての要望です。平素、立川南のまちづくりについての活動は非常に住民としても感謝しております。

客引き防止条例に改正して2年になり、居酒屋関係の客引きは非常に少なくなりましたが、キャバクラ、風俗営業等の客引きは減少していません。金曜日に防犯パトロールを午後9時から行っておりますが、客引きが非常に多く、80人ぐらいの客引きの方がおります。

厳密には、客引きと呼び込みの違いはあるようですが、パブリックスペース、公共空間として道路を塞いでいいのかという疑問があります。道路は、そこに住む人、働く人、通行する人などの道であります。通るのに不快を感じております。錦町と柴崎町の境の広い通りの白線上に大きな飲食関係の看板がずらっと出ており、その看板の前に客引きをする人が出ている。そうすると、3分の2は塞がった状態で、車がやっと通れるぐらいになり、いつ事故が起きてもわからないような道路ですので、何とかしていただきたいです。

すずらん通りの近辺では、非常にたばこのポイ捨てが多く、その近辺だけでも250本くらい回収しました。また、缶コーヒーやペットボトル、お弁当、カップラーメンの食べ残し等がそのまま放置され、非常に乱れた状態になっている。市のほうで何とか対応していただきたいと思います。

平日の夕方、シルバー人材センターにも協力していただき、道路清掃していますが、客引きが吸っているたばこ問題解決のための一つの方法として、点字ブロックを設置してはどうかと考えます。点字ブロック上には物を置くことが禁止されているようですので、そのあたりを少し考えていただきたく、よろしくお願いいたします。

(市長)

折に触れてその話は職員から聞いております。直接、幹部職員も交代で毎週歩いてパトロールしております。私も年末には警察署長とパトロールしておりますが、難しい問題があることはご存じかと思えます。市区長会の中で新宿区長ともいろいろお話を聞いており

ますが、地道に続けていくしかない、手を緩めたらおしまいだよ、といった話を聞いております。ご商売の関係もあり、取り締まるだけ取り締まってというわけにもいきません。地道に辛抱強く続けていくことが肝心だというつもりで承知しております。

また、駅の直近はたばこを捨てる人が結構少ないが、少し外れたところへ行くと、建物の陰やいろいろなところにたばこの吸い殻が捨ててあり、これはゆゆしき問題だといった話を聞いております。このことにつきましては、今年度の予算を少し増やして、たばこの吸い殻のパトロール、あるいはたばこを吸っている人への注意喚起する人員を増やしました。地道に取り組んでまいりたいと考えています。

点字ブロックのアイデアについて、担当課へ相談させていただき、どういう形で実行に移せるかどうか持ち帰らせてもらい、警察と協議をして、オーケーということであるならば、なるべく時間を置かずに実行に移したいと思います。

(参加者)

17時から、つきまといや客引きはダメですといったアナウンスが流れますが、最初、警察のほうにアナウンスをお願いしたところ、引き受けてもいいといってもらいましたが、その後すぐに、そういった条例に警察署の名前の記載がないといった理由で断れたことがあります。ぜひ、警察署を条例に含んでいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(市長)

どういうことになっているのか精査させていただきます。

(参加者)

今年5月に柴崎会館の委員長になりました。先ほど市長が触れた公共施設再編計画についてお尋ねしたいと思います。

委員長を引き受けて、将来を一番案じて、会館の必要性を理解してもらう努力をしなければならぬと思っています。たましんR I S U R Uホールで行われた公共施設再編勉強会に参加して、検討の方向性として、柴崎町地区は第一中学校圏域に入り、地域の核となる施設のイメージが重要なポイントであると言われておりました。柴崎会館は、地域のコミュニティの中核として十分機能していると思いますし、利用件数も多く、利用率も学習等供用施設の11の中では上位に入っていると自負しております。また、10月の台風21号では、近くに土砂災害の危険があるということで避難場所となり、防災の重要な拠点施設となっていると思っています。

お話しできる範囲でお尋ねしたいと思います。まず1点目は、柴崎会館の施設としての方向性をどのようにお考えになっているのか。ここの学習館と非常に機能的に同じような施設が近くにあります。我々の会館は既に27年経っており、そういう状況の中で柴崎会館の方向性がどうなるのか、若干気にしております。

2点目として、公共施設再編計画期間が平成29年度から38年度の10年間と、中期的展望に立って計画を策定しておりますが、その間に、また以前に再編の具体的な動きないし対象があるのかどうか教えてほしいです。

3点目として、今後、会館運営をどのようにすればよいのか、アドバイスをいただければと思っています。

(市長)

利用率等から考えれば、しっかりと運営されているということですから大丈夫かと思い

ます。ただ、古くなって建て直さなければならないということになったときに、近くにある別の公共施設と一緒に合築しようといった考えが生じることがあるかもしれません。

具体的な運営については、これだというアドバイスはないのですが、会館の運営方法は、地域でそれぞれ随分異なります。なかなか一概に、アドバイスすることは難しいです。地域の成り立ちの中でありますから、これはという運営の仕方というのはなかなか難しいです。特に学習等供用施設の場合は狭い地域を網羅しています。

(参加者)

柴崎町だけでなく、富士見町、錦町の皆さんに利用され、そういう意味では、地域のコミュニティの中核として、すばらしい利用率を誇りながら運営していると思っていますので、学習館とは違うということをぜひご理解いただきたいです。また、パソコン等で管理運用されておらず、フェース・ツー・フェースで対応しているため、年配の方に好評で、高齢者の利用が高いです。柴崎会館の認識を市長に深めていただきながら、再編計画の中に取り入れていただければ非常にありがたいです。よろしくお願いします。

(総合政策部長)

公共施設再編計画については、市全体の床面積を今後40年間で20%減らすといった話で、単に床だけを減らす話ではなく、利用方法の見直しや、部屋としての区分の使い方を変えたり、経営の仕方を公共ではなく民間の方に譲ってみたり、サービス全体のあり方をもう1回見直そうといったことを、昨年度まで検討しました。

今年度からは、中学校圏域を一つの圏域として、どこの中学校圏域のどういう施設を対象に再編していけばいいかを検討しているところで、具体的に柴崎学習館とか、学供施設とか、そういったものについて、すぐに俎上に上がるという話でもありません。

まだ圏域が決まっておりませんので、その圏域を決めた中では、利用率の部分や地域の状況を聞きながら、皆さんと一緒に計画を立てていきたいと思います。皆さんのご意見をお聞きする場は今後つくっていきます。ただ総論としては、市長が申し上げたように、人口は減るし、生産年齢人口は減るし、子どもたちは減るし、社会情勢も変わり、行政の財政状況も非常に厳しくなる中では、今の施設の使い勝手でよいのか、問題提起をした上で、皆さんと一緒に検討していきたいです。当面の間、利用率が高いということであればご心配なさらなくてよろしいかと思います。

計画については、5年単位で再編の個別計画ということで具体の計画を立てていきたいと考えており、最初の第1期の再編個別計画をどうしようかと検討しておりますので、ある程度方向性が出ましたら、市民の皆様にお示ししていきたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

指定管理者については、現在、いろいろな施設を指定管理者としておりますが、学習等供用施設というのはある意味特別です。元々その地域の皆さんが運営、経営し、地域の核となってやっていたものを、法律が変わったことで指定管理者制度に移行したのですが、ほかの施設の指定管理とはちょっと意味合いが違うので、我々としても課題意識を持っております。どういう経営方法がいいのか、行政としても悩ましいところで、地域の方とお話ししながら、今後のいい道筋を探していけたらと考えております。

(参加者)

4点ほどお願いしたいのですが、まず、J R 青梅線の高架の問題が、どのような進展に

なっているのか。それから、昨年か一昨年か、お話しいただいた、多摩川にかかる新富士見橋の進行状況。それともう1点は、立飛企業所有のサンサンロード側の用地の計画状況。それと、私が西立川児童会館の理事長をやっているのですが、学童と児童のための施設として、立川市の援助をいただきながら地元で運営しておりますが、この運営について今後も援助をしていただきたいという4点でお願いします。

(市長)

まず、J R 青梅線の高架事業の関係でございますけれども、高架にする問題については、あそこの部分のカーブが少しきつ過ぎるので、青梅線へ連続するのには難しいところがあるのではないかという見解をJ R では持っております。その方向性として、道路を地下にするか、道路を高架にするかも含めて、まだ決まってない状況であるとい聞いております。私も年に数回、J R 本社あるいは八王子支社、あるいは関係する省庁である東京都、そして政府のほうにも陳情でお伺いしております。三鷹から立川間の複々線化をどうするかということについては、地下化にすると、現在ある複線の線路の下を地下鉄にするということまでは決まっておりますが、その先をどうするかについては全く政府も東京都も方向性が出せずにいるところで、引き続き要望活動が続けていきたいと考えています。

(総合政策部長)

3・1・34号線の延長のことですね。広路からずっと延びていって、そのまま富士見町を通過して多摩川へ行く、その橋ですね。

(参加者)

中央線の多摩川にかかる西側の橋という、新富士見橋と名前は決まっているはずです。

(総合政策部長)

着工という話は聞いていないのですが、確認してご連絡いたします。

(市長)

立飛の用地計画については、年明けの2月初旬にくわ入れ式をやるということを知っています。多摩信用金庫さんは有数のコレクターで、展示できるような美術館併設の多摩信用金庫本店が一番南の部分に来ます。真ん中の部分が商業施設になりまして、公園側の西側は、ホテルができ、温泉を掘って各部屋に温泉を供給し、屋上には温泉プールのようなものをつくりたいと聞いております。

一番北側のところが、2,500人が入る大きな規模の音楽ホールという話のようです。壁が取っ払われて、外の観客と一体になるような構造にするそうで、観客数としても大きな規模のホールが整備されるそうです。開館がオリンピックの年の春、2020年4月に全面オープンするという計画を聞いております。

児童会館に関しては、やめる云々といったことはありませんし、逆にお願いするばかりで申しわけないと思っております。しっかりとフォローしてまいりますので、よろしくご協力をお願いします。

(参加者)

昨年、羽衣町で防災訓練を行った際、防災倉庫にある発電機4台の使用目的や使用方法、燃料の確保等について、全然分かりませんでした。昨年度のこのタウンミーティングで

市長に対処をお願いしたところ、今年の防災訓練で使用目的や方法についてある程度理解でき、その点についてお礼申し上げます。ただ、燃料の確保がまだ確定しておりません。

今年の防災訓練で、マニュアルに沿って屋外の施設等をチェックした中で、第六小学校が大規模改修され、校舎等はきれいになりましたが、その一環として西側にある正門の地面がきれいなカラーのれんが張りになりました。しかし、れんが張りのところは重量のある車両が入れないこととなり、南門からしか進入できないとのことでした。災害時、南門から物資を搬入すると、校庭を突っ切ることとなり、避難所運営上も不便で、危険を伴うことになります。防災課の担当者に判断を求めましたが、非常に難しい問題とのことで、保留事項になっています。今後、そういった学校施設での改修工事がある場合には、今回のような支障が生じないよう対応してほしいです。費用も二重に発生してしまうこともありますので、ご考慮願いたいと思います。

(市長)

災害時最優先ですから、いざというときには壊れてもやむを得ないと思っています。校門周辺を改修するようなことがあったら、そのときに対応するよう担当に伝えておきます。

(参加者)

かつて小学校に勤めていた者ですが、第一小学校をはじめ市内の学校で郷土資料室というものが幾つかありましたが、大規模改修の中でそういった資料室がなくなり、残念な思いをしています。かろうじて残っているのは南砂小学校と幸小学校と第四小学校です。

地域の人とかかわりの中で寄贈されたものや、また収集されたものは、子供たちの生きた教材として貴重なものではないかと思います。学校は、そういうものを学びの場として活用に努めていく必要があるのではないかと思います。

予算を伴うことであり、建築担当課の意見もあるようで、教育委員会だけの考え方ではうまくいかないという話も聞いております。また、保存すべきものは歴史民俗資料館が引き取ることも行われているようですが、年代や出所がはっきりしないものについては引き取らないということで、廃棄されることも多々ある状況のようです。

子どもが減少して余裕教室ができるかもしれませんので、資料を保管できる部屋を設けたり、設けられない場合は一時的にプレハブや物置に収納しておく等、長期的な視点から、子どもと地域をつなぐ、歴史をつなぐ貴重な資料の保存を考えていきたいと願っています。

(市長)

歴史民俗資料館の件ですが、大概のものは市民からお申し出があれば引き取っておりますが、倉庫もいっぱいな状態と聞いております。価値があるものかどうかしっかりと見極め、収集、保管をしていかなければならないと思っております。課題として受け取らせていただきます。

(参加者)

保育の資格は持っていませんが、保育士さんたちのアシスタントとして、何か手助けができればと思い、東京都の子育て支援の研修を受けてきました。また、そういった研修生を保育の現場で採用するようになった場合は、私のような高齢者でも採用されるよう、年齢制限等はなくしてほしいです。

(市長)

待機児童対策には力を入れております。今年度300人を超える定員を確保できる見込みです。立川市の待機児童は、新年度になれば、ほぼ無くなる状況の予定です。

保育園が雇うことに関しては厳しい状況にあるようですが、研修を受けられた方が有効に機能できるよう担当のほうに伝えておきます。

(参加者)

地元の防災担当を行っておりますが、災害時の要配慮者に対する支援制度がありますが、自治会の中にはあまり浸透していないように思えます。富士見町の場合はかなり高齢化が進み、ひとり住まいや高齢者の仮住まいがどんどん増えているという中で、障害者の方等の要支援者に対する対応を早く自治会単位でやりたいといった思いで活動しています。市長が先ほどおっしゃった新しい画期的な条例ができるということに対して、詳細がわかれば、参考になればという感じでお聞きしたいです。

(市長)

この条例は、具体的な行動の内容は入っておらず、あくまで理念条例です。具体的な障害者の方などへの対応については、これから市民の皆さんと一緒に作り上げてまいりたいといった状況です。

(参加者)

広域連携サミットについて、9市連合ということで、多摩における立川市の立ち位置というか、ポジションを教えてください。

また、観光という視点から、観光情報センター多摩が立川駅の上にできたと思うのですが、今の具体的な成果とか、今後の方向性について教えてください。

(市長)

広域連携サミットに関しては、立川市と行政が接している8市に呼びかけをして、一緒に何か連携できるものがあつたらやっていこうということで発足しました。きちんと正式には決めておりませんが、実質的な9市のサミットのトップのような形で、立川市が声かけや場所の確保や、いろいろな裏方の仕事全てを立川市が主導でやっています。

立川がリードして皆さんと協議をしながらやっていかなければならないだろうという覚悟を私自身はしております。

観光情報センター多摩の関係ですが、立川南駅の南側にある駐輪場の土地の約7割が東京都の土地で、残り3割が立川市の土地となっており、東京都は国分寺市にある「しごとセンター多摩」等の機能をその土地に建設予定の建物内に移転するというので、東京都と立川市が一緒に建物を建てる予定です。建物内に駐輪場を建設する他、デッキと同じ高さのフロアに90㎡程度の場所を確保して、そこで、観光情報や物産、情報発信をしていきたいと考えておりましたが、小池都知事が就任と同時に、エキュート3階に観光発信情報の場所をつくるよう指示したことで、私が当初考えていた構想が駆逐されてしまいました。

そこで、建設予定の3階を利用して、東京都ができないような内容で、9市合同で何かの情報を発信していきたいと考えています。間もなく12月議会が始まりますので、おそらく、その議会の中で明らかにしていきたいと思っています。

(参加者)

普段、政治とか市政とかにあまりかかわりがないのですが、案内状が届きましたので、質問させていただきます。

どの自治体もそうだと思いますが、これから歳出が増えて、大きく歳入が減っていく中で、私としては、やはり無駄をカットする、歳出をカットしていく方向性も大事だと思うのですが、いかに歳入を減らさないように、むしろ増やしていく、そういう歳入のほうでの具体的なプランや政策があったら、教えていただきたいなと思います。

2つ目は、ごみの分別に立川市はかなり力を入れていること、自分の暮らしの中でもよくわかるところで、リサイクルをするに当たっての企業選びの基準ですとか、立候補する企業の数というのは一体どれぐらいいるのか知りたいところです。

(市長)

人口減、少子高齢化、歳入がこのままでは減ってくるということは、おっしゃるとおりですが、どんな形で歳入を増やしていくかということは、数年前から予算編成のときの目玉の一つとして、立川に来ていただける来街者をどれだけ増やしていくかということにかかっていると思っています。

例えば企業誘致として、IKEAを誘致しましたが、土地や建物にかかる固定資産税の税負担を、一定期間、実質半分にするような措置をとることにより、IKEAが来てくれました。立飛さんの土地も同様に、実質、税負担を減らす措置をとることにより、企業誘致を行っております。そのため、ある一定期間は、税収が減ることになりますが、企業が10年、20年、そこで活動することによって、来街者がどれだけ増えるかということを考えれば、これは投資として正しい方向であると思っています。

その他、ファーレ立川のキャンペーンを去年から行っておりますが、具体的な数字はわかりませんが、マスコミ等で取り上げていただいたことにより、来街者は増えていると思っています。また、立川駅から乗車するお客の数だけでいくと多摩地区ナンバーワンです。

統計数理研究所の研究によると、立川に来て2時間以上滞在する来街者の数が最大時で1日四十五、六万人いるだろうという数字も出ており、八王子よりも多く立川に人が集まっているといった結果もあります。これからは立川へは来街者を大勢呼び込むということで市の財政をしっかりと固めていきたいといった展望を持っています。

ごみ分別におけるリサイクル委託の業者は、複数の業者での入札で選んでいます。ごみの分別を市民の皆さんにお願いしておりますが、分別されていないごみは、西砂町のリサイクルセンターでベルトに乗せて仕分け作業を委託業者が行っております。

(総合政策部長)

補足ですが、企業誘致については、法律上、税金を半分にすることはできないので、100%いただいた税金の半分を奨励金という形で企業側に交付している形で、税負担を軽減する措置をとっております。

(参加者)

この近所を見ると、少子高齢化が進み、お年寄りのご夫婦が亡くなると、その跡には単身赴任者用のアパートやマンションができるというような形が次々進んでいる地域です。錦町は新しいマンションが建ったりしますが、柴崎町地区にはなかなか子育てファミリーが新しく入ってくるような環境が整っていないと思いますので、この辺をぜひ市としてお

考えたいと思います。

近所に柴崎公園や小さな公園が幾つかありますが、ここの設備が、昭島や国立と比べてもあまりにも貧相で、昔の鉄製の急な滑り台がぽんと1つ置いてある程度です。滑り台とよじ登れる遊具が一体化した簡単な遊具が小さな公園に1つずつでも置いてもらえれば、小さな子供を連れた祖父母や親御さんが安心して一緒に遊べると思います。お金もそれほどかからないと思いますので、そういった簡単な遊具を近所の公園に置いていただきたい。若い方が新しい住居、住むところを探すとき、近くに保育園、幼稚園、学校、病院があることの他に、休日にすぐ連れていける近所の公園があるということは気になると思います。この辺が立川市は見落とされていると思います。

モノレール柴崎体育館駅下の立川公園にそういった遊具が置かれているのを見ました。古い滑り台は撤去して、スペースをとらない複合的な簡単な遊具を整備したら、お母さんたちも楽しく遊べると感じました。

それから、柴崎市民体育館プールの男性用更衣室のロッカーの中がさびだらけで奥にはカビが生えており、あまりにもひどい状況です。

市長が再任されて、立川市の財政は非常によくなったと思い、ほんとうに感謝しておりますが、予算のめり張りをつけて、身近なところにもぜひ目を向けていただきたいです。近くの温浴施設やスポーツジム、ゴルフ場などを見ていただければ、さびない形でのものも考えられると思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

窓口サービスセンターの場所が、外からわかりづらく、もう少し、見やすく大きな文字で表示した方が市民の方も立ち寄れるのではないかと思います。

(市長)

まず、単身マンションが増えていることは、まさにご指摘のとおりで、大変苦慮しております。駅周辺は土地が高く、手っ取り早く不動産を運用するのには、単身者用のマンションが最適だと、不動産業界からお聞きします。武蔵野市や三鷹市もそのような状況で、単身者用のマンションは、昼間はおらず、地域との交流も少ないということで、大変苦慮しており、大きな課題であると認識しています。

小さな公園の遊具に関しては、私も身にしみて感じております。たまの休みのときには孫を連れてあちこち歩いているものですから、いい提案だと受け取らせていただきます。

それから、プールのロッカーに関しても、市長への手紙というのがありまして、何通も受け取っており、承知しております。

それから、窓口サービスセンターがわかりにくいということですが、全くそのとおりで、もう少し大きくて派手な看板と思ったのですが、景観条例の関係から市の施設の看板を目立たせることは難しいです。小さいことは承知しており、何とかしたいと考えます。

3 閉会の挨拶

(市長)

今日はお忙しいところ、大勢の方々にご出席をいただき、さまざまなご提言や苦言を頂戴いたしました。まさにこの会の趣旨に沿った内容であり、充実した時間だったと思っております。ぜひ、今後も折に触れて、市長への手紙、あるいは、手紙を書くのが面倒でしたら、パソコン等を利用して市のホームページにご参加いただければと思っております。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。